

科目区分：スポーツキャリア開発コース 授業科目：運動とバリアフリー

授業評価報告：「運動とバリアフリー」(H22 後期授業)

学生の『ノーマライゼーション』を考える力と意識の芽生え

DO-CHECK-ACTION から愛媛大学のバリアフリー化への提案書作成へ

教育学部 保健体育講座 牛山眞貴子

1 はじめに

本授業は、生涯学習群スポーツ健康科学課程3年生必修の授業である。新導入科目として本課程設置と同時に設けられたため、新課程学生が3年生に上が、初めて開講する授業であった。

この課程では一年次終了後、スポーツ指導者養成コースと学生がこれまで培ってきたキャリアと潜在するキャリアを活かして、社会で活躍できる人材を育成するスポーツキャリア開発コースに、学生の選択によって、分かれた。

本授業の中では、学生の学士基礎力からの発展を期待するキャリア形成支援を目指し、山本万喜雄4コマ、牛山眞貴子12コマで授業を構成した。社会的教養としての健康、福祉、協働、バリアフリー、ノーマライゼーションの知識と理解を深め、到達目標に達する力を身につける役割を担う。体育やスポーツ専攻生は、体力・健康・気力に恵まれている。だからこそ社会貢献できることを知り、優しさをもつ強さを認識しなくてはならない。

人は、誰1人としていつまでも強くあり続けることはない。人は皆、弱者になることもあることを知り、心で考えるための教養を身につけることが大切である。

2 受講生の構成

スポーツキャリア開発コース3年生 11人

3 授業の目的・到達目標

○授業の目的

社会貢献できる人間力を構築するためには、ノーマライゼーションに根付いた思考と発想が期待されている。体育・スポーツを専攻する学生が自分以外の人、特に社会的弱者（子ども、高齢者、障がい者

等）として支援を必要とする人たちとの共生と協働を考え、これから学生にできることを構想するために、理論と実践の双方向から学習することを目的とする。

○ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）

<共通教育の理念・教育方針に関わる項目>

D-1現代社会で生じている健康やスポーツに関するさまざまな課題について論じ、適切な対応を考えることができる。（思考・判断）

D-2多世代にわたる対人関係能力およびコミュニケーション能力を獲得し、豊かな地域社会づくりに貢献するための適切な行動ができる。（態度）

○到達目標

1) 知識・思考

バリアフリー・ノーマライゼーションの概念を説明し、論述することができる。

2) 技能・表現

障がいのある人、高齢者、生活支援を必要とする人たちと、運動を通して交流することができる。

3) 意欲・関心

積極的に行動することができる。分け隔てなく人と関わることに能動的に取り組むことができる。

ディプロマ・ポリシーと到達目標は、D-1と知識・思考が対応し、D-2と技能・表現、意欲・関心が対応しており、リンクし合っているといえる。

4 授業内容

<授業構成>

第1回 ガイダンス（授業の目的、日程、評価の確認）、授業マナーとルール、ノーマライゼーション・バリアフリーについての講義

牛山, 山本

第2回 子ども理解 私の出会った子どもたち

山本

第3回 弱さを絆に一保護者との連携

山本

第4回 特別支援学校に置ける体育指導

山本

第5回 障がい者とスポーツ、エイブル・アート

牛山

第6回 障がい者とスポーツ、エイブル・アート

牛山

第7回 障がい者とスポーツ、エイブル・アート

牛山

第8回 実践 愛媛大学内のバリアフリー化の

視察と調査（現状と課題） DO

牛山

第9回 実践 愛媛大学内のバリアフリー化の

視察と調査（現状と課題） DO

牛山

第10回 車いすでの実践：車いすを使って学内を移動してみる→愛媛大学のバリアフリー化向上

のための資料づくりに繋げる。 DO 牛山

第11回 愛媛大学のバリアフリー化の視察から

見えて来た現状と課題の報告会，協議 CHECK

牛山

第12回 愛媛大学のバリアフリー化の視察から見えて来た現状と課題の報告書を作成，学生支援

室，バリアフリー推進室へ提案書提出 CHECK

ACTION 牛山

第13回 実践

車いすを使つての表現活動とダンス・プログラム

DO 牛山

第14回 実践

車いすを使つての表現活動とダンス・プログラム

DO 牛山

第15回 これまでの実践についての振り返り

グループワークによるまとめと検討、プレゼンテ

ーションと評価 CHECK 牛山

5 授業アンケートからの授業評価

(1) アンケートについて（項目と内容の抜粋）

『運動とバリアフリー』授業アンケート

氏名

受講生の皆さんへ 受講してくれてありがとうございます。次期からの授業に必ず役立てますので、下記の質問に回答ください。（これは成績とは関係ありません。） よろしくお願ひします。牛山

項目1 授業内容について、印象に残った内容に項目程度で良いので何点か挙げてください。授業改善してほしいことがあれば遠慮なく書いてください。

項目2 自己の授業参加意識について

項目3 この授業のテーマであった、バリアフリー、意識改革、社会貢献について、考えは授業前と後とでは変化がありましたか。今、どう考えますか。

（変化があった 変化がなかった）

→○で囲んでください。考え（簡単で構いません）も書いてください。

項目4 この授業が、該当すると思われる自己到達目標です。○をつけてください。

1 知識・思考

バリアフリー・ノーマライゼーションの概念を説明し、論述することができる。

2 技能・表現

障がいのある人、高齢者、生活支援を必要とする人たちと、交流することができる。

3 意欲・関心

積極的に行動することができる。分け隔てなく人と関わることに、能動的に取り組むことができる。

(2) 各項目の回答からの結果

① 授業内容について、印象に残った内容

車いすダンス8人，バリアフリーに関する提案 11

人、エイブルアート3人、バリアフリー推進室への訪問3人

② 授業改善してほしいこと
特になし 10人、今回の授業が初なのでどんどん進化させてほしい1人

③ 自己の授業参加意識について
11人の記述は「授業回数を重ねていく毎にどんどん意欲と積極性が高まった」もしくはそれとほぼ同意の感想であった。11人

④ この授業のテーマであった、バリアフリー、意識改革、社会貢献についての授業前と後の変化
変化があった 11人
変化がなかった0人

⑤ 考え
11人の自由記述総括→全て肯定的な意見であった。「大学のバリアフリーの現状がわかり、わかるだけでなく、改善を考え、さらに提案書を届けることができた時大きな達成感があった。」「大学への期待が高まった。」「バリアフリーとノーマライゼーションが実感でき、自分の言葉でこの経験を語れることが自信になった。」

⑥ この授業が、該当すると思われる自己到達目標
1 知識・思考 10人
バリアフリー・ノーマライゼーションの概念を説明し、論述することができる。
2 技能・表現 11人
障がいのある人、高齢者、生活支援を必要とする人たちと、交流することができる。

3 意欲・関心 10人
積極的に行動することができる。分け隔てなく人と関わることに、能動的に取り組むことができる。

学生のアンケート評価からも、授業内容に対して積極性の高まり、身近な気づきからのノーマライゼーションへの意識の高まり、行動への自信が表現されていた。ディプロマ・ポリシーと到達目標はD-1と知識・思考が対応し、D-2と技能・表現、意欲・関心が対応しており、ほぼリンクし合っていたことが伺えた。

6 愛媛大学バリアフリー化に関する提案書

今回の授業では、学生の実地調査によって、『立ち上がり、愛大生！！今こそ、バリアフリー改革の時』（報告書）を作成した。

詳細は、紙面の関係上省略するが、この「学内のバリアフリーを期待する」報告は、大学生の視点で、現状を写真と図面で顕在化させ、具体的な改善策を提案している。

A 「今、愛媛大学生一人ひとりのバリアフリーや、公共マナーへの意識の改革実践・提案」

- 他学生の模範となるよう、構内での自転車の走行速度、駐輪範囲、走行範囲の厳守に努める。
- 障がいの有無に関わらず、困っている人に手を差し伸べる。
- 車いす利用者、高齢者、子どもと話す場合、相手と気持ちよくコミュニケーションをとれるように、目の高さを合わせる。

B 「生協周辺のバリアフリーについての提案」

(省略)

C 「第一・第二体育館のバリアフリー提案」

(省略)

D 「第三体育館のバリアフリーについての提案」

特に、23年度内完成予定の第三体育館設立にあたって（抜粋）

- 段差をなくす →スロープをつける
- 身障者用のトイレの設置
- 施設を1階だけにする
- 2階を作るのであれば、手すりやエレベーターの設置

以上の提案を行っている。

*** 2月2日、学生支援室、バリアフリー推進室、保険体育講座教員（10名）に、今後の改革への期待を胸に、本提案書を提出できたことは、顕著な成果として挙げられる。**